

事務事業 No./名称	■サービス部門 拠点-02 古都中心市街地整備事業 □支援部門						
主管課	再開発課	関連課	各部各課				
分野名	市街地整備						
目標 (目標値)	鎌倉駅周辺地区の都市整備を推進していきます。						
人口等のデータ	データ区分	24年度	23年度	22年度	備考		
	人口	177,224人	177,204人	177,161人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	79,669世帯	79,217世帯	78,812世帯			
運営資源状況	事業の対象者数						
	決算値(千円)	127	4,792	498			
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	127	4,792	498			
	人員配置数	1.3	3.0	2.5			
	人件費(千円)	10,278	26,165	22,142			
事務事業運営経費	協働のパートナー						
	総事業費(千円)	10,405	30,957	22,640			
	市民1人当りの経費(円)	59	175	128			
	対象者1人当りの経費(円)						
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名⇒						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(27年度)
鎌倉駅西口駅前広場整備事業 (基本合意)	△	目標値	50%	70%	100%	100%	100%
		実績値	36%	38%	36%	36%	
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退							

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H24決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止
古都中心市街地整備事業	0千円	①効率性 ○ ②妥当性 △ ③有効性 △ ④公平性 ○		⇒	□A □B □C ■D □E
	事業の概要	鎌倉駅西口駅前広場整備及び建物共同化事業の推進			
古都中心市街地整備事務	127千円	①効率性 △ ②妥当性 △ ③有効性 △ ④公平性 ○		⇒	□A □B □C ■D □E
	事業の概要	事業運営に伴う業務管理			
		①効率性   ②妥当性   ③有効性   ④公平性		⇒	□A □B □C □D □E
		①効率性   ②妥当性   ③有効性   ④公平性		⇒	□A □B □C □D □E
		①効率性   ②妥当性   ③有効性   ④公平性		⇒	□A □B □C □D □E
		①効率性   ②妥当性   ③有効性   ④公平性		⇒	□A □B □C □D □E
		①効率性   ②妥当性   ③有効性   ④公平性		⇒	□A □B □C □D □E

事務事業の課題及び取組状況

H24年度の課題	事業への協力を得られていない権利者との合意形成。	
課題解決のための取組	事業への理解・協力を得るため、継続的に権利者調整を行った。	取組の結果 □解決 ■未解決
未解決の課題	継続的に権利者調整を進めているが、一部権利者との合意形成に至らず、事業実施に遅れが出ている。	

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切=○ 要改善=△ (評価の視点を参照)	①効率性 △	今後の方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	※□事業完了
		②妥当性 △		事業への理解・協力を得るため、関係権利者及び関係機関等と協議・調整を行っていく。	課長等名
		③有効性 △		↓	
		④公平性 ○		D	再開発課担当課長 斎藤 政徳

(2面) 個別事業の評価

(単位:千円)

小事業名	ザイムスコード	個別事業名	24年度予算	24年度決算値	評価⇒適切=○、要改善=△(1面の評価の視点を参照)			
					①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性
古都中心市街地整備事業	主な個別事業							
古都中心市街地整備事務	1310	一般文具等消耗品費	132	127	○	○	○	○
	1310	陽画等印刷製本費	5	0	△	○	○	○
	主な個別事業							
	主な個別事業							
	主な個別事業							